

大町病院を守る会会報

No. 8

2011年7月発行

大町病院を守る会

発行責任者北村喜男

第1回病院祭に2000人、雨の中、大盛況 講演会・DMAT 報告・ミニ健診・もぎ手術・ステージ 医師・職員・商店会・守る会が協力しあう

生活のインフラは市民が守る

5月29日9時30分より第1回病院祭が開かれ、大勢の参加者でにぎわった。台風2号が熱帯低気圧となり、梅雨前線が刺激を受け大雨となった中での開催となった。

【↓源流美麻太鼓の演奏】



小林千恵子報告

オープニングは「源流美麻太鼓」で始まり小中学生の息のあった撥さばきは来院者に元気を与え、ステージ内では中高生のブラスバンドの演奏があり、この機会であれば聞けることができない、特に「ふるさと」の演奏はシーンと来たようです。会場が静まり返ってしまいました。院内では来院者に関心のある健康に関するコーナーが人気があり、骨密度は中高年の女性で、300人あまりが受診、親子の姿も多く、子供たちの手術室での体験は未知との遭遇、将来

に期待したい。子供ドクター・ナースはかわいらしく良い思いでの一コマになったと思います。「工作、読み聞かせ」もアイデアのあるコーナーでした。先生方のミニ講演会は女性にとっても参考になり、好評でした。「ボランティアコーナー」での布きりの指導も関心がありボランティアの方の熱意に感謝しています。「いまどきの介護」新しい介護用品は女性には欠かせません。ほかに新鮮さのある「癒し」のコーナーが人気で混んでいました。フットケア、DMAT、AEDの講習など病院祭を盛り上げていました。外のテナントは雨の中で大変でした。昼ごろまでにはほとんどが売り切れになったり品不足だったのではないのでしょうか。午後の「三四六講演」はファンも多く今回のメインでした。本当に良かったと来院者の方が喜んでおりました。雨の中でみんなご苦労してくださって、無事に終了できました。地域の皆様に支えていただき感謝感謝の病院祭でした。

開会は大木哲実行委員長の挨拶、山田博美病院長、牛越徹病院開設者、来賓として諏訪光昭県議会議員、大原富義市議会議員、横澤厚信大北医師会会長が挨拶





ステージでは仁科台中学校、大町北高等学校の
 ブラスバンド、津軽三味線、木畑 Dr の大道芸
 が行われた。

【↓ 木畑先生の大道芸と仁科台中学校のブラスバンド】



↑津軽三味線

↑大町北高校ブラスバンド演奏

守る会出演

続いて鮮やかなコスチュームに身を包んだ
 守る会の「清水あさひとそのグループ」による
 クイズが行われ、拍手喝さいを受けた。



続いて、3月11日その日に、東日本大震災に
 派遣された伊藤仁医師とそのメンバーによる

DMAT 模擬演習が行われた。



メインは三四六の講演



三四六講演要旨【田原富美子会員報告】

午後1時過ぎ、颯爽とした姿の三四六さんが、
 サーカスのテントのような、駐車場の特設ステー
 ジに姿を現したのは、そんな土砂降りの雨の中
 です。



【熱心に聞き入る聴衆と熱弁をふるう三四六】

待ちに待った観客に大歓声に迎えられ、会場を埋
 め尽くす聴衆に向け、「命について」をテーマに、語り始
 めました。当日の雨は時宜にかなったぴったりの話
 題。冒頭では「5月に降る雨は五月雨(さみだれ)と言っ
 て・・・五月雨の『さ』は早苗の『さ』。『みだれ』は水が垂
 れる。早苗を植えたところに水が垂れるので『さみだ
 れ』と言った」と、日本 (3 ページ上段へつづく)

縁の下の力持ちたち

病院祭運営にあたり大雨の中協力いただいた守る会ボランティアのみなさん

本部北村喜男会長、松澤郁子副会長 **カメラ**高橋袈裟登 田原富美子 **駐車場係** 西沢正敏 吉田義雄 降旗 剛 種山良治 高橋博久 海川明文 **会場案内**◎西沢唯芳 北沢文子 丸山美栄子 **売店** (三四六の本) 小日向春美 渋谷見博 **売店** (アクリルたわし) 小日向淳子 宮崎せつ子 **布切り指導とカッティング係** ◎小林千恵子 中村けさ子 松本武子 松本明子 宮崎真理子 太田初子 原 広子 **会員募集係** ◎種山博茂 宮島邦夫 黒岩良介 神社正幸 **子供と遊ぶコーナー** 清水あさひ 西沢とみえ 柳沢たに江 平林信子 山口悦子 **待機・呼び込み係** ◎矢口定男 小林政雄

守る会会員および呼びかけにこたえて

出店していただいた皆さん

- ① まちなかウオーキングの会 お汁粉・焼き鳥
- ② 小林真奈美 パン・アロマセラピー・トマトの苗
- ③ 小林千恵子 アクリルたわし・ストライプ
- ④ 興国和美 手作り作品・花
- ⑤ ヘブンズキッチン クレープ・チャパティ
- ⑥ 鳥王 鳥のカラ揚げ
- ⑦ キハダ飴実演販売 キハダ飴
- ⑧ シルバーロード&ベル ケーキ
- ⑨ きつつきの家 山菜弁当
- ⑩ しずかの里 うどん・大町ウインナー
- ⑪ 八坂野菜くらぶ 野菜
- ⑫ 菜の花組合 菜種油
- ⑬ 美麻キッチンガーデン パン・コーヒー・クラム
チャウダー
- ⑭ いーずら館 地蜂せんべい、地場産品販売

第1回病院祭の感想と反省

北村喜男（本部受付）

病院際に参加して心配した大雨の影響をよそに、当日は2000人も参加者でにぎわった「病院祭」に参加し、改めて地域の人たちの「大町病院」に対する関心の高さを実感いたしました。各種団体や地域商店街そして守る会の会員の皆様による屋台、仁科台中学校、大町北校吹奏楽部の演奏、病院職員に

よるさまざまな催しやミニ健診、さらに大勢の聴衆が聞き入った三四六の講演会など大変に充実した『病院祭』でありました。講演の中で三四六さんが語った「息の道」の話にあった「引き継いだ息(命)」のように「守る会」の活動が今後引き継がれるためにも、取り組みの輪をさらに大きくしていくことが大切であると感じました。それと同時に多少なりとも今回の「病院祭」のお手伝いできたことを嬉しく思いました。

松沢郁子（本部受付）

市立大町総合病院の初めての病院祭開催に成功を念じながらも、守る会として何をどんなことが、と思い巡らすスタートでした。

5月29日(雨)もっとも気がかりなことだった。会員も何かと気配りで開会前の準備作業へと取り掛かっていただき整えられた。新会員入会、東日本災害募金箱を前にしていたが、遠くから募金箱へ歩み寄ってくる人、小さい子供に何か話を語りかけながら募金箱へ。「ありがとう」「ご苦労さま」の声がお互いに掛けあえる一時、社会には人の情けがまだまだ熱い思いのできた時でした。会場は大勢の人の姿「このお天気なののにの思い」と病院への関心の高さを感じさせられたことでした。

塩原義夫（書籍販売）

「地域とともに歩む明るく開かれた病院を目指して」をテーマに院内と駐車場ではじめての市立大町総合病院祭を開きました。台風2号の影響で大雨のところ約2000人の来場者でにぎわいました。源流美麻太鼓のオープニングで始まりその後開会式での高木実行委員長、山田病院長の挨拶のとき会場内より「頑張ってください！！」との暖かい声援をいただき、実行委員の一人として大変嬉しく思いました。仁科台中ブラスバンドをはじめ、出演者のかたがた皆すばらしく、喜んでいただけました。また、タレントの三四六さんによる「命について」と題した講演を雨の中500人ほどの皆さんが最後まで身を乗り出すように聞き入っていました。天気が悪かったためなおさら三四六さんのように勢いのある元気な方にお問い合わせできたことを本当に良かったと思いました。第1回病院祭は反省するところもあり

ましたが、大成功でした。特に雨の中、駐車場係の人には頭が下がる思いがしました。

宮島邦夫（本部受付）

大町病院の病院祭には、開会前から多くの市民や、近隣町村の住民の方が来場し閉会后までにぎわった。病院祭の開催時間中だけでも雨が降らなくてほしいと願ったが、当日は予報どおり雨降り、風も吹いた。この天気では来場者が少なくても仕方がないとあきらめながら病院に行き担当する受付会場の準備をしていると家族連れや友達同士と思われる方々が順次集ってきた。開会前の源流美麻太鼓が始まったころには相当の人ごみに安堵するとともにこの雨降りのなか来場された多くの皆さんに感謝の気持ちで胸が一杯になった。大勢の皆さんが来場された理由はどこにあったか考えてみると・・・①大町病院は、身近な信頼できる病院であるという意識の現われ ②地域の基幹病院であり大北唯一の公立病院でより充実した病院にという期待 ③病院祭の広告（新聞折込のチラシ）が見やすい編集、多色印刷で、イベントや出店の内容等も豊富で市民の関心を集めるチラシであった。病院祭は一応成功したと理解できる。私は成功したと喜んでいる余裕はなく、市民の皆さんが病院を理解して協力しようとしてくれているこの機会を起爆剤としてより充実した病院づくりに前進する必要があると思う。

西沢唯芳（案内係）

雨天にも関わらず予想を上回る大勢の参加者で市民の関心の高さを痛感できたがイベントに参加をしたことで主催者の目的を理解してもらえた人も多かったと感じている。今回の成功は病院の関係者は当然、われわれ守る会の関与もあったからと自信と満足感はある。もちろん個人的にも参画できたことに感謝と喜びを感じている。今回のイベントで病院関係者のモチベーションが上がることと、市民および周辺住民が大町市総合病院の存続、業態改善に大きく期待し協力体制を引いていただけたらと期待する。今回は第1回ということもあり何人かの意見を聞いても全に評価はしてくれたが指摘もあった。良いところは続行拡大して充実させよう。

提案

- ① 病院内は今回の人員だけでもピーク時、非常に混雑した。レイアウトに工夫を要す。
- ② テントはさらに数および大きなものが必要かと思う。
- ③ ハンドマイクとは別に放送設備があるとタイムリーに連絡およびアドバイスが可能
- ④ 入院患者への見舞い者の駐車場の配慮も必要(患者に説明と理解を)
- ④ いろいろなブースの状況と待ち時間を何か表示か放送とあいているブースへの案内。
- ⑤ 各ブースの大型案内板
- ⑥ 病院見学コースの順路の明示。
- ⑦ 開催日の検討。(他のイベントとの調整)
- ⑧ 大きさ広さが全てではないが街をあげてイベントにするには東側の駐車場の使用も。

種山良治（駐車場）

「今日の雨では車もあまり来ないだろうから暇だろうな」この思いは直ぐに打ち消されることとなった。早々より車の列で3箇所の駐車場が満杯になりメインの南駐車場は量販店の売出日状態となった。うれしい誤算であり14時を過ぎても来場する車に感謝である。反省、次回の要望として①駐車場を更に確保すること。②救急患者など病院患者の駐車場の確保、案内方法の徹底。③出入りを繰返す出店関係車両の車置場の確保。④駐車場案内メンバーの連携方法。

駐車係は来場者に接する最初の案内係でもある。できるだけ声をかけたつもりだがどうだったろうか？ 次回は晴天を期待する。

病院祭への提案 種山博茂

- ① 祭名を「大町病院感謝祭」にしたら病院を利用して有難う。病気を治してくれて有難う。地域医療の拠点であってありがとう。の気持ちを込めて
- ② ポスターは3カ月くらい前に必要
- ③ ステージはバイパス側でよかったと思う
- ④ レング薬局駐車場から病院駐車場に入れるように
- ⑤ フワフワだけでなく子供の遊びを考える
- ⑥ アンケートを聞く人、記録をする係が必要
- ⑦ 院内が混雑したのでできることは野外テントで
- ⑧ 来年はミツルヤ跡地を駐車場に借りること
- ⑨ 総合案内所が必要
- ⑩ 本年度開催される各地の病院祭を見て回り参考にする

【この会報は大町市きらり輝く協働のまちづくり事業の助成を受けています】

人が自然と寄り添い、名付けた五月雨の語源を話し初めます。聴衆は真剣に聞き入り、うなづいています。そして「僕自身が命について学んだ」と、「生老病死」について話しが進みます。三四六さんはマイクだけあれば、もう机なんかいらぬ。ステージ前に出て「命は、重いのではなく『はかない』、『軽い』んです。誰かが支えていないと、守らないと、倒れて死んでしまう。だから軽いんです」と、力を込めます。そしてホワイトボードに大きく「命」と書きます。「『命』から『口』を除いたら、『令』の字になります。命令の『令』ですが、はたしてどういうことなの？」聴衆は神妙に考えます。「上からの命令で、生かされているんです『あなたに授けますよ』と。極楽浄土に行きたいけれど、そこを守っている人が、修行が足りないと言って、与えたものが命です。『命』の語源は、皆さんがしている『息の道』だそうです。死ぬ時には『息を引き取る』・・・と言います。バトンをつないだんです。命を引き取るんです、残された家族が。日本人は人が死ぬことすらロマンチックに考えています。残った家族が引き取った『息』、だから『命』を大事にしなきゃいけない・・・」と、力を入れ、熱く語りました。

大テントの外はテント村



さまざまな商品や食べ物の模擬店が沢山そろったテント村が出現。食べ物はお汁粉、焼き鳥、パン、ケーキ、クライムチャウダー・・・・・・・・。

院内では、 玄関で守る会会員と病院職員による案内が行われた。そして様々な催しが行われた。守る会ではボランティア紹介コーナーを置き、布切りの実演講習会を開いた。子供コーナーでは、工作として「ありがとうメッセージ」を書くための台紙づくりが行われた。



【↑布切りのボランティア講習会講師の面々】

↑

【子供工作コーナー「ありがとうメッセージ」の台紙づくり】



【↑栄養相談】



【↑骨密度測定には長い列が出来る】



←【フットケア】



【並び列に市長さん】



【↓模擬店の焼きそば、お汁粉、カレーの皆さん】



団体会



正面玄関で守る会本部が義援金募集

義援金と会員募集の垂れ幕を掲げ、東日本被災地への支援カンパを受け付けた。また新規会員を募集した。新規会員 20 名が加入した。



病院労働組合は豚汁ふるまう



市立大町総合病院職員労働組合では、正面玄関横で豚汁の振る舞いを行いました。

例年より早い梅雨に加え、台風 2 号の影響により雨模様。どの位お客様が見えるかと不安はありました。オープニングの美麻源流太鼓の演奏が終わる頃には準備が整い、雨の中迫力ある演奏をしてくれた子供たちにまず一杯。その後徐々に客足が伸び、11時半頃には、最初に準備した 300 杯が終了。その後準備した 150 杯もあっという間に終わりました。「梅雨寒」のおかげもあり、皆様にはとても喜んでいただきました。隣のブースのキハダ飴さんから差し入れていただいた行者にんにく入りあり、ねぎいっぱいバージョンあり、時々おいしく味わっていただけたのではないかと思います。ありがとうございました。

【病院職員労働組合執行委員長 本山 朋子】

義援金集約できる

病院祭の会場では東日本義援金の募金が行われた。参加者や出店の皆さんからもカンパがされた。守る会も小林(千)、宮崎さんらが手作りしたアクリルたわしの売上金をカンパ、塩原書店さんも三四六の本の売りにプラスしてカンパされた。総額4万円円を7月6日牛越徹大町市長に市長室で北村会長、病院宮脇事務長らから手渡した。

守る会の活躍は

守る会では運営に当たり22日総会の後、ボランティアの参加者打ち合わせ会議がありました。集合時間とメンバー、作業内容の打ち合わせをし当日に備えました。

雨の中がんばるなかまたち



【↑共同作業所がんばりやさんのショップ】



【↑守る会会員の皆さんのショップ】



【↓ 医師の講演会にも大勢が参加する】



模擬手術に集まった子供たちは将来何に



【↑手術室の公開には多くの子供たちが参加した】

【↓将来は医師か看護師か・・・】



【↓ ミニ検診】



【↓ スタンプラリー受付】【↑ 栄養相談】



【↑ ステージには多くの市民が】

【↓ DMAT 展示】



準備にも大きなエネルギー

祭にあたり病院は1月に、高木哲医師を執行委員長に、各科ごとに実行委員を出し、実行委員会を結成、科ごとに何を取り組むか検討を重ねた。

実行委員会は病院祭が初めてということもあって毎週月曜日の夕方仕事が終わってから1時間の会議を重ねた。

守る会では皆で参加しようと考え、1週間前の22日午前中に、プランターへの花の植栽と、玄関横の花畑の草取りを実施しました。また事前打ち合わせ会議を2回持ちました。

雨の中、業者と職員は、

前日の28日(土)は午後から雨模様でしたが、テントを重機で釣りあげたり、はこんだり。

院内ではレイアウトと飾り付けで、大忙し。胸がわくわくしているようでした。成功に向けて一丸となって準備が進められました。



【↑子供ドクター・ナース】【↑いまだきの介護】